

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立中央小学校

校長 長谷 由香

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

地域・保護者とともに協働できる学校にするために様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、保護者や地域の方々の思いや願いが反映された学校づくりを推進します。学校づくりビジョンの達成のために様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともに歩む学校」の推進を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

【特色ある教育活動】

○スマイル活動

小規模校のメリットを最大限にいかし、異学年で構成する縦割り班活動（スマイル活動）を行いました。6年生がリーダーとなって休み時間の遊びを企画、運営するスマイル遊びは全校児童が楽しみにしている活動です。本年度は、ペア学年での清掃活動が全学年に広がり、また、異学年で授業の交流をするなど児童自らが自主的に活動する姿が見られました。



○みてみて集会

がんばってできるようになったことや特技を全校集会で発表します。本年度は感染対策のためオンライン配信で行いました。この集会は10年ほど続いています。この集会では特技を披露する子、がんばりを見る子、集会を運営する子など様々な場面で活躍する子が見られます。みんなから認められ、自信を得ることで誰もが主人公になることを願っています。



【地域学習・地域伝統の継承】

○伝統芸能の体験活動

運営協議委員より提案いただき、本年度は音楽の時間に計画的に伝統芸能の体験活動を位置づけ活動を行いました。

4年生は、地域で古くから伝わる山車「菅公」について話を聞きました。地域の方に祭りの際に使われる和楽器を紹介していただきました。

6年生は、「吟剣詩舞」についての歴史や内容について話を聞き、詩舞体験を行いました。また、「諏訪太鼓」保存会の方に伝統を継承することの大切さについて話を聞かせていただきました。その後、自分たちで練習し、「6年生を送る会」で披露しました。



○鯨船、大入道、まちかど博物館の見学

4年生は地元で伝わる伝統行事について理解を深めました。地域の方に四日市祭りの歴史や内容について保存会の方に話を聞かせていただきました。

鯨船や大入道が保管されている倉庫を見学し仕組みについても学びました。地域に伝わる伝統芸能を大切に保存していきたいという保存会の方の思いにふれることができました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

保護者や地域の方が学校教育活動に参加していただく機会が増えることで連携がより深まってきています。昨年度より学校行事等を参観していただいた後に、保護者や地域の方に学校アンケートを行っています。アンケート結果をもとに協議会において話し合い、より効果的な学校運営について協議を行うことができました。

さらに、運営協議会において地域資源を活用した活動の充実について意見をいただき、本年度は計画的に位置付けました。結果、地域の方をゲストティーチャーに招き、伝統芸能の体験活動を行うことができました。

小規模校の特色を活かし、一人ひとりが活躍できる場を設定し取り組みを進めてきました。「みてみて集会」の発表を通して、みんなから認められ、自信を得る経験をすることができ、自尊感情を育むきっかけとなりました。結果、学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた児童が89%となりました。一方で悩みを抱えている児童も一定数いることがわかりました。引き続き、家庭と学校が連携し小さな変化を見つけ、児童を見守ることを大切にしていきます。

3 今後に向けて

従来から、地域と子ども、地域と学校というつながりが大変密接で地域ぐるみで子供を育てていこうという気風が根強くあります。学校教育活動への支援、登校時の見守りなどの様々なところで地域と学校が協働する場があり、多くの地域の方にご協力をいただけてきました。

学校評価アンケートにおける「学校は保護者や地域の人々へ学習を公開したり、地域の人々に教えてもらったりする機会を設けている」項目については90%を超える肯定的な意見をいただいています。

異学年交流については学習活動の中で計画的に取組を進める機会が増えてきました。児童の自主的な活動を促しながら、他者を思いやる気持ちを育てる取り組みを進めていきます。

また、本校には鯨船や諏訪太鼓をはじめ地域に伝える行事がたくさんあります。少子化に伴い文化財を存続、継承していくことは難しいですが、今後は地域の人材活用を運営協議会からの発信により企画、運営するなど地域の参画をめざした学校づくりを行ってまいります。